

2021年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2020年9月2日

上場会社名 株式会社スカパーJSATホールディングス 上場取引所 東
 コード番号 9412 URL <https://www.skyperfectjsat.space/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 米倉 英一
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 仁藤 雅夫 (TEL) 03-5571-1500
 四半期報告書提出予定日 2020年9月4日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (証券アナリスト、機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第1四半期の連結業績(2020年4月1日~2020年6月30日)
(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第1四半期	34,674	0.5	5,594	51.4	5,977	57.0	4,022	63.2
2020年3月期第1四半期	34,519	△41.3	3,694	△20.5	3,807	△25.2	2,464	△25.8

(注) 包括利益 2021年3月期第1四半期 4,169百万円(73.0%) 2020年3月期第1四半期 2,410百万円(△13.7%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第1四半期	13.54	—
2020年3月期第1四半期	8.30	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年3月期第1四半期	378,420	230,404	60.6	772.47
2020年3月期	378,367	228,943	60.3	767.69

(参考) 自己資本 2021年3月期第1四半期 229,430百万円 2020年3月期 228,010百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	—	9.00	—	9.00	18.00
2021年3月期	—	—	—	—	—
2021年3月期(予想)	—	9.00	—	9.00	18.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日~2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	140,000	0.3	12,000	△21.4	12,500	△22.3	8,000	△33.5	26.94

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2021年3月期1Q	297,007,848株	2020年3月期	297,007,848株
② 期末自己株式数	2021年3月期1Q	一株	2020年3月期	一株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2021年3月期1Q	297,007,848株	2020年3月期1Q	297,007,848株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想に関する事項は、添付資料P. 4 「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照ください。

(四半期決算補足説明資料及び四半期決算説明会内容の入手方法)

当社は、2020年9月2日に証券アナリスト、機関投資家向けの決算電話会議を開催する予定です。その説明内容 (音声) については、当日使用する決算説明資料とともに、開催後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

なお、本文中の記載金額は、億円単位の表示は億円未満四捨五入とし、百万円単位の表示は百万円未満切捨てとしております。

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により極めて厳しい状況にあるものの、個人消費に持ち直しの動きがみられるなど、下げ止まりつつあります。

当社グループを取り巻く環境としては、メディア事業の分野では既存の有料放送市場が成熟している一方で、定額制又は無料のインターネット動画配信サービス市場は拡大を続けており、コンテンツ獲得及び顧客獲得の両面で国内外の事業者との激しい競争が続いております。宇宙事業の分野では船舶・航空機向けの移動体衛星通信や5G（第5世代移動通信システム）を活用した新たなサービスの登場による携帯電話基地局向けバックホール回線の需要が拡大する一方で、グローバルマーケットにおいて海外衛星オペレーターとの厳しい価格競争に直面しております。また、ベンチャー投資の増加に伴い、世界レベルで新たな事業者が宇宙ビジネスに参入し、安価なロケットの開発や大規模な低軌道衛星通信システムプロジェクトを推進するなど、ビジネスの環境が大きく変化しております。

このような経済状況の下、当第1四半期連結累計期間における当社グループの経営成績は次のとおりとなりました。

区分	前第1四半期 連結累計期間 (百万円)	当第1四半期 連結累計期間 (百万円)	前年同四半期比 (百万円)	増減率 (%)
営業収益	34,519	34,674	155	0.5%
営業利益	3,694	5,594	1,899	51.4%
経常利益	3,807	5,977	2,170	57.0%
税金等調整前四半期純利益	3,807	5,977	2,170	57.0%
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,464	4,022	1,557	63.2%

なお、EBITDAは前年同四半期比15億円増加し、124億円となっております。

(注) EBITDAは、親会社株主に帰属する四半期純利益、法人税等合計、支払利息、減価償却費、のれん償却額の合計として算定しております。

当社グループのセグメント別の概況は次のとおりです。(業績については、セグメント間の内部営業収益等を含めて記載しております。)

<メディア事業>

・サービスの拡充及び差別化

(サービスの拡充)

テレビ1台分の料金で3台まで追加料金なしで50チャンネルが見放題となる「スカパー！基本プラン」は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴って在宅時間が増えている状況の中で、2020年4月末より、新規加入と同時に基本プランをご契約いただいたお客様は最大2ヶ月視聴料が「無料」となる「スカパー！イェナカ応援キャンペーン」を展開し、契約件数は2020年6月末時点で550千件（前年同月比140%）に達しました。家庭内の複数の部屋で視聴できる環境を増やすことで、お客様の満足度向上を図っております。

また、光ファイバーによる地上デジタル・BSデジタル等の再送信サービスにおいては、昨年9月以降、新4K8K衛星放送全チャンネルを視聴することが可能となっており、再送信サービスの提供エリア拡大に合わせ、契約件数の拡大に努めております。

(コンテンツの差別化)

2020年シーズンのプロ野球は3ヶ月遅れて6月19日に開幕し、昨年に引き続き「プロ野球セット」でセ・パ12球団の公式戦全試合を放送・配信しております。

海外サッカーでは、18/19シーズンから放送・配信を行なっている「ドイツ ブンデスリーガ」について、20/21シーズンから5シーズンにわたる独占放送権・配信権を獲得しました。日本国内における共同マーケティング活動を含むブンデスリーガとのパートナーシップ契約により、従来の放送・配信にとどまらず、クラブを招聘したプレシーズンマッチ開催や各種イベントの実施など日本のファンを増やすための様々な施策を実行してまいります。

2020年3月1日開局の総合スポーツチャンネルスポーツライブ+（プラス）では、2020年シーズンの放送権を獲得したプロ野球福岡ソフトバンクホークスの主催試合を中心に、海外サッカーや国内サッカー、B.LEAGUE等のスポーツ中継を行い、スポーツコンテンツをより多くのお客様にお楽しみいただいております。

当第1四半期連結累計期間における加入件数は次のとおりとなりました。

	新規（注）	解約	純増減	累計
当期	167千件	185千件	△18千件	3,152千件
前年同四半期比	△9千件	37千件	△46千件	△123千件

（注）従来の「新規加入件数」及び「再加入件数」を合算して表示しております。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間のメディア事業の経営成績は次のとおりとなりました。

	前第1四半期 連結累計期間 (百万円)	当第1四半期 連結累計期間 (百万円)	前年同四半期比 (百万円)	増減率 (%)
営業収益				
外部顧客への営業収益	24,137	22,261	△1,875	△7.8%
セグメント間の内部営業収益等	848	805	△42	△5.1%
計	24,985	23,066	△1,918	△7.7%
営業利益	654	2,174	1,520	232.4%
セグメント利益（親会社株主に帰属 する四半期純利益）	474	1,603	1,129	238.2%

視聴料収入の減少12億円等により営業収益が減少いたしました。これにより番組供給料も6億円減少いたしました。これに加え、シーズンスポーツの開催延期等によりコンテンツ費が10億円減少したことや、減価償却費の減少8億円等により、営業利益及びセグメント利益は増加いたしました。

<宇宙事業>

・既存事業の強化

2020年2月にJCSAT-17（軌道位置：東経136度）の打ち上げを実施し、2020年4月に移動体通信の既存顧客に向けて長期利用契約のもとサービス提供を開始いたしました。

グローバル・モバイルビジネスの拡大及び競争力の強化のため打ち上げたハイスループット衛星（従来よりも伝送容量を大幅に拡張した衛星。以下「HTS」という。）であるHorizons 3eは着実に収益を拡大しております。今後、同じくHTSであるJCSAT-1Cとあわせて、増大する通信需要に対応してまいります。

・新たな技術の活用や事業領域拡大への取り組み

Planet Labs Inc. の保有する多数の超小型地球観測衛星群により高頻度で撮影された衛星画像販売サービスに関しては、政府系機関や民間の農業・災害対策・遠隔監視等の分野で順調に契約を獲得しております。また、高頻度に船舶動静把握ができる「高頻度船舶検出サービス」を提供しております。

宇宙航空研究開発機構（以下「JAXA」という。）より技術試験衛星9号機（ETS-9）の運用を請け負い、当社グループの静止軌道光学モニタを同衛星に相乗りさせ、新たなサービスの検討などに活用いたします。また、JAXAより譲り受けた小型実証衛星4型を運用しております。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の宇宙事業の経営成績は次のとおりとなりました。

	前第1四半期 連結累計期間 (百万円)	当第1四半期 連結累計期間 (百万円)	前年同四半期比 (百万円)	増減率 (%)
営業収益				
外部顧客への営業収益	10,381	12,413	2,031	19.6%
セグメント間の内部営業収益等	2,188	1,968	△220	△10.1%
計	12,570	14,381	1,810	14.4%
営業利益	3,225	3,568	342	10.6%
セグメント利益(親会社株主に帰属する四半期純利益)	2,146	2,529	383	17.8%

新型コロナウイルス感染症の影響により航空機内インターネット接続用衛星回線の収益が3億円減少いたしました。2018年度から2019年度にかけて投入したJCSAT-17及びHorizons 3eの収益が19億円増加したこと等により営業収益は増加いたしました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における資産合計は3,784億円となり、前連結会計年度末比(以下「前期比」)1億円増加いたしました。

流動資産は、Xバンド事業に関する債権回収等により売掛金が40億円減少いたしました。現金及び現金同等物の増加79億円等により前期比58億円増加いたしました。なお、リース債権の増加462億円及び仕掛品の減少463億円は、主にJCSAT-17のサービス開始に伴い仕掛品をリース債権へ振り替えたことによるものであります。

有形固定資産及び無形固定資産は、設備投資により13億円増加いたしました。減価償却費59億円、のれん償却額2億円等により前期比48億円減少いたしました。

当第1四半期連結会計期間末における負債合計は1,480億円となり、前期比14億円減少いたしました。

主な増加は前受収益91億円であり、主な減少は社債の償還及びXバンド事業に関する借入金の返済等による有利子負債の減少79億円、未払金の減少34億円であります。

当第1四半期連結会計期間末における非支配株主持分を含めた純資産は2,304億円となり、前期比15億円増加いたしました。

主な増加は親会社株主に帰属する四半期純利益の計上等による利益剰余金の増加13億円であります。また、自己資本比率は60.6%となり、前期比0.3ポイント増加いたしました。

当第1四半期連結累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益、減価償却費、のれん償却額の合計120億円に加え、売上債権の減少40億円及び前受収益の増加91億円がありましたが、未払金の減少34億円等により、206億円の収入(前年同四半期は135億円の収入)となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産及び無形固定資産の取得による支出23億円等により23億円の支出(前年同四半期は69億円の支出)となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入金の返済による支出27億円、社債の償還による支出50億円、配当金支払による支出26億円等により104億円の支出(前年同四半期は52億円の支出)となりました。

以上の結果、当第1四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は、前期比79億円増加し、515億円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の連結業績につきましては、2020年6月25日公表の「2020年3月期決算短信」に記載の連結業績予想を変更しておりません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	25,103	42,476
売掛金	74,369	70,362
リース債権	2,910	49,104
有価証券	18,498	8,998
番組勘定	1,202	2,661
商品	864	975
仕掛品	47,273	959
貯蔵品	282	275
短期貸付金	1,198	1,190
未収入金	535	101
その他	4,477	5,150
貸倒引当金	△669	△415
流動資産合計	176,049	181,840
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	9,630	9,421
機械装置及び運搬具（純額）	27,203	26,593
通信衛星設備（純額）	96,373	93,239
土地	2,924	2,924
建設仮勘定	154	416
その他（純額）	6,253	5,970
有形固定資産合計	142,539	138,565
無形固定資産		
のれん	1,823	1,603
ソフトウェア	6,847	6,281
その他	60	60
無形固定資産合計	8,731	7,945
投資その他の資産		
投資有価証券	20,312	19,210
長期貸付金	18,578	18,456
繰延税金資産	9,065	9,231
その他	3,089	3,170
投資その他の資産合計	51,046	50,069
固定資産合計	202,318	196,580
資産合計	378,367	378,420

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	419	184
1年内償還予定の社債	5,000	—
1年内返済予定の長期借入金	6,467	7,173
未払金	12,392	8,977
未払法人税等	734	2,816
視聴料預り金	8,066	7,951
前受収益	7,154	16,215
賞与引当金	655	290
その他	6,892	5,618
流動負債合計	47,782	49,226
固定負債		
社債	15,000	15,000
長期借入金	75,974	72,387
繰延税金負債	344	385
役員退職慰労引当金	6	6
退職給付に係る負債	6,023	6,125
資産除去債務	2,298	2,322
その他	1,993	2,563
固定負債合計	101,641	98,789
負債合計	149,423	148,016
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,000	10,000
資本剰余金	131,984	131,984
利益剰余金	86,504	87,853
株主資本合計	228,488	229,837
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△72	△85
繰延ヘッジ損益	△649	△569
為替換算調整勘定	500	500
退職給付に係る調整累計額	△256	△253
その他の包括利益累計額合計	△477	△407
非支配株主持分	932	973
純資産合計	228,943	230,404
負債純資産合計	378,367	378,420

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
営業収益	34,519	34,674
営業原価	22,727	21,338
営業総利益	11,791	13,336
販売費及び一般管理費	8,096	7,741
営業利益	3,694	5,594
営業外収益		
受取利息	576	493
受取配当金	5	14
持分法による投資利益	26	110
為替差益	—	3
その他	49	130
営業外収益合計	658	752
営業外費用		
支払利息	477	364
為替差損	55	—
その他	12	4
営業外費用合計	545	369
経常利益	3,807	5,977
税金等調整前四半期純利益	3,807	5,977
法人税、住民税及び事業税	1,168	2,076
法人税等調整額	228	△165
法人税等合計	1,396	1,911
四半期純利益	2,410	4,066
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△53	43
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,464	4,022

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
四半期純利益	2,410	4,066
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△341	△16
繰延ヘッジ損益	△251	110
為替換算調整勘定	591	0
退職給付に係る調整額	2	3
持分法適用会社に対する持分相当額	△1	6
その他の包括利益合計	△0	103
四半期包括利益	2,410	4,169
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,463	4,093
非支配株主に係る四半期包括利益	△53	76

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	3,807	5,977
減価償却費	6,263	5,850
のれん償却額	219	219
受取利息及び受取配当金	△581	△508
支払利息	477	364
持分法による投資損益 (△は益)	△26	△110
売上債権の増減額 (△は増加)	3,326	3,999
番組勘定の増減額 (△は増加)	781	△1,459
未収入金の増減額 (△は増加)	255	434
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△1,987	46,210
未払金の増減額 (△は減少)	△691	△3,415
前受収益の増減額 (△は減少)	6,641	9,061
リース債権の増減額 (△は増加)	99	△46,193
その他	△3,260	460
小計	15,324	20,892
利息及び配当金の受取額	716	673
利息の支払額	△522	△725
法人税等の支払額	△1,993	△228
営業活動によるキャッシュ・フロー	13,524	20,611
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△5,878	△1,994
無形固定資産の取得による支出	△917	△344
その他	△71	△10
投資活動によるキャッシュ・フロー	△6,868	△2,349
財務活動によるキャッシュ・フロー		
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△57	△59
長期借入金の返済による支出	△2,476	△2,660
社債の償還による支出	—	△5,000
配当金の支払額	△2,624	△2,624
非支配株主への配当金の支払額	△39	△35
財務活動によるキャッシュ・フロー	△5,197	△10,380
現金及び現金同等物に係る換算差額	△3	△9
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	1,456	7,871
現金及び現金同等物の期首残高	48,089	43,602
現金及び現金同等物の四半期末残高	49,545	51,474

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自2019年4月1日 至2019年6月30日)

1. 報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	メディア事業	宇宙事業	合計	調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
営業収益					
外部顧客への営業収益	24,137	10,381	34,519	—	34,519
セグメント間の内部営業収益 又は振替高	848	2,188	3,037	△3,037	—
計	24,985	12,570	37,556	△3,037	34,519
営業利益	654	3,225	3,879	△185	3,694
セグメント利益(親会社株主に 帰属する四半期純利益)	474	2,146	2,620	△156	2,464

(注1) セグメント利益の調整額△156百万円には、セグメント間取引消去△6百万円と、各報告セグメントに配分していない全社損益(全社収益と全社費用の純額)△149百万円が含まれております。全社損益は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費、営業外収益及び税金費用であります。

(注2) セグメント利益は、四半期連結損益計算書の親会社株主に帰属する四半期純利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間(自2020年4月1日 至2020年6月30日)

1. 報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	メディア事業	宇宙事業	合計	調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
営業収益					
外部顧客への営業収益	22,261	12,413	34,674	—	34,674
セグメント間の内部営業収益 又は振替高	805	1,968	2,773	△2,773	—
計	23,066	14,381	37,448	△2,773	34,674
営業利益	2,174	3,568	5,742	△148	5,594
セグメント利益(親会社株主 に帰属する四半期純利益)	1,603	2,529	4,133	△111	4,022

(注1) セグメント利益の調整額△111百万円には、セグメント間取引消去△4百万円と、各報告セグメントに配分していない全社損益(全社収益と全社費用の純額)△106百万円が含まれております。全社損益は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費、営業外収益及び税金費用であります。

(注2) セグメント利益は、四半期連結損益計算書の親会社株主に帰属する四半期純利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。